平成２７年度事務部門管理者会議の開催結果

平成２７年１１月７日
第４０回理事会

１．開催日：平成２７年１０月３０日　アルカディア市ケ谷（私学会館）
２．参加者：７７名（５４大学、１短期大学）、２６年度４９名（３４大学）
３．テーマ：「アクティブ・ラーニングの推進と教学マネジメント体制の確立」
４．目　的：事務部門管理者としてアクティブ・ラーニングを普及・推進していくために心得ておくべき反転授業導入の必要性と実施体制の課題、全学的にアクティブ・ラーニングを普及し、教育の質保証を目指す教学マネジメント体制改善への取り組みについて理解の共有を図ることにした。
５．確認・理解が得られた主な点

① 授業の大半を占めていた講義を動画として事前に配信することで、教室での授業時間を主体的な学び合いのアクティブ・ラーニングの時間にする。

② 事前学修の動画は見栄えのよいビデオでなくてもよい。何をどこまで学修させて、対面授業で知識の定着・確認、知識の活用をどのように行うかなどの授業設計が大切。チームでアクティブ・ラーニングすることで学生の状況を把握することができて目に見える授業改善ができるようになる。

③ 毎回の授業で行わなくても少なくとも半期で５回以上は必要。９０分の内、６０分程度は対面授業で教員と学生、学生同士による学び合い行うことで知識の定着が進む。残りの３０分は事前動画で理解できない点を講義で補足することも必要。しかし、主体的な学びとするため、ビデオで事前学修しない学生に対して対面授業の場で講義しないこと。

④ 個別授業における動画教材の著作権は教員個人に帰属するが、共通科目やMOOCなどの教材は大学に帰属する。

⑤ 全学的に広めていくには、各学科で３～５名の教員に施行して事例をつくり、理解力の高い学生、低い学生に効果があることを体験し、ＦＤでの研究が必要。

⑥ 教育の質保証を目指して、具体的施策・達成目標に向けたアクション・プログラムを設定して実施している。

⑦ アクティブ・ラーニングを推進するため、実施科目を体系化して授業内容を可視化、アクティブ・ラーニング手引書の作成、教員の教育力向上を図るためのワークショップの実施、教員自身で授業の振り返りを行うティーチング・ポートフォリオの研究開発を進めている。

⑧ 学修成果を可視化するため、学修ポートフォリオによる自己評価と外部機関による学修到達度調査・学修行動調査、学内試験を組み合わせた成績評価レーダチャートを導入し、学生一人ひとりに改善目標を持たせる仕組みが大切。

⑨ 実質的な学外学修時間を確保できるよう、授業の前後にＴＡ、ＳＡによる学修支援を時間割りに組み込み予習・復習をシステム化している。

⑩ 教員と職員が目標を共有し、同等の立場で協働する教学マネジメントの改善に取り組むことが重要。一例として、業務改善マネジメントシステムを導入して職務行動表をもとに職員の業務評価を実施するとともに、課長から係員までの役割と成長課題を研修するための研修体系を構築している。

⑪ 二つの講演の後、関連情報の提供として事務局から、アクティブ・ラーニングとＩＣＴの活用、学修ポートフォリオ導入の共通理解の促進策、ＩＣＴの活用状況を分析した大学情報環境白書、情報化投資額の調査結果、来年度補助金の要望などを通じて管理職として理解いただく点を総合的に整理することができた。

６．会議の反応

教育の質的転換に対する取り組みへの意識が大変強く感じられた。改善に向けたさまざまな取り組みよりも、教職員一人ひとりの改革意識を如何に高めるかが最も急がれる課題であることがうかがえた。